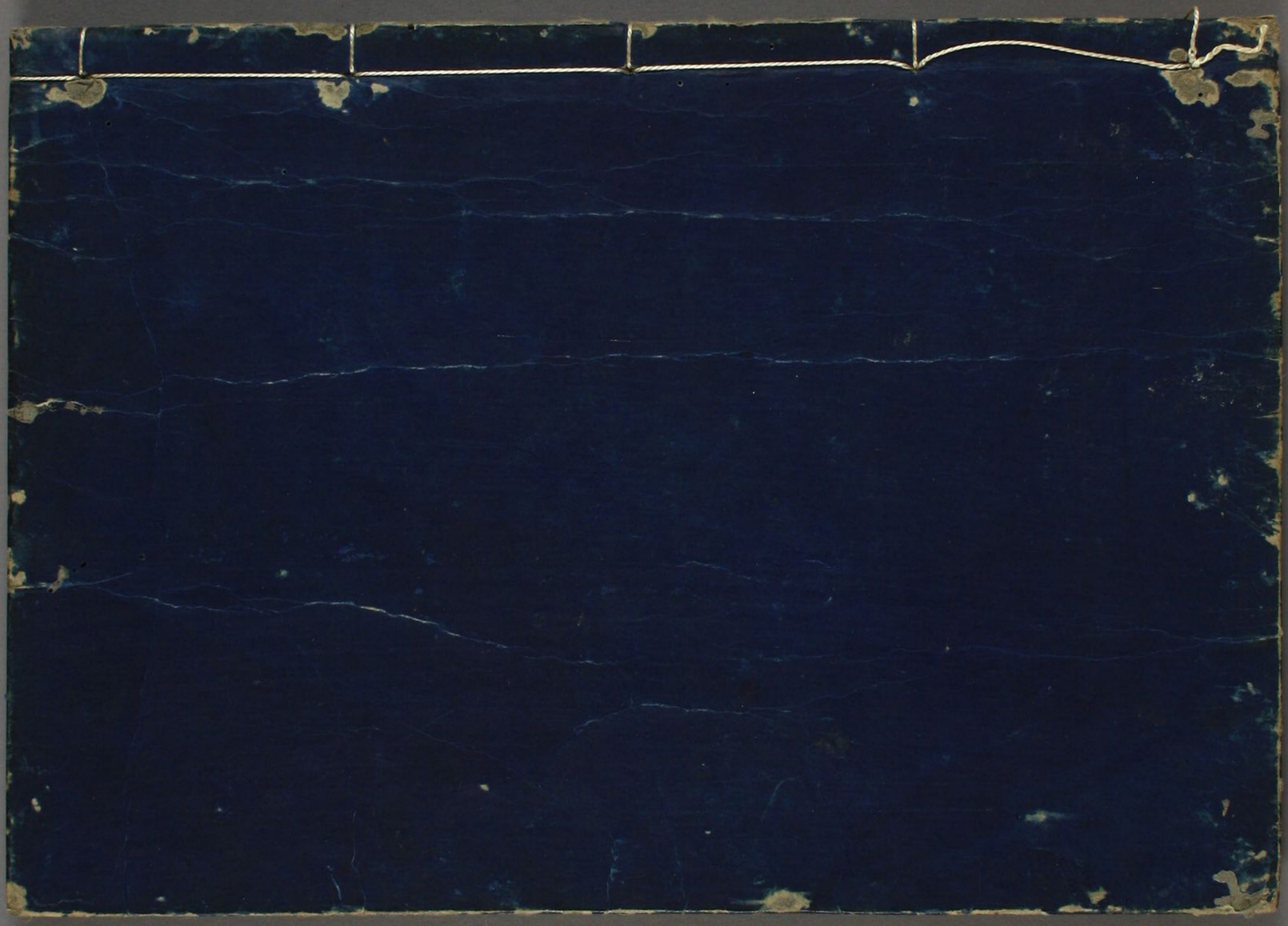


さわらび
屋とり未
あつまや
うきふね

宇治中

帝國圖書館藏

十二月大このつれ
ゆかしき

中君

中君はまのひかりをはなれてかくれ
けるよりはるかにあはれにかなしく
ゆめのやうにおぼしまどはるるに
ものをおもひしるしるべきかたもなく
乃(仏)代(代)にはかくしてあるべきことにもあらず
あるかぎりはかくてあるべきにもあらず
ほのかにもかくれにしかなりし
ものとわすれがたくおもひなりぬ
ゆめのうつつのわかれとはいひながら
中君

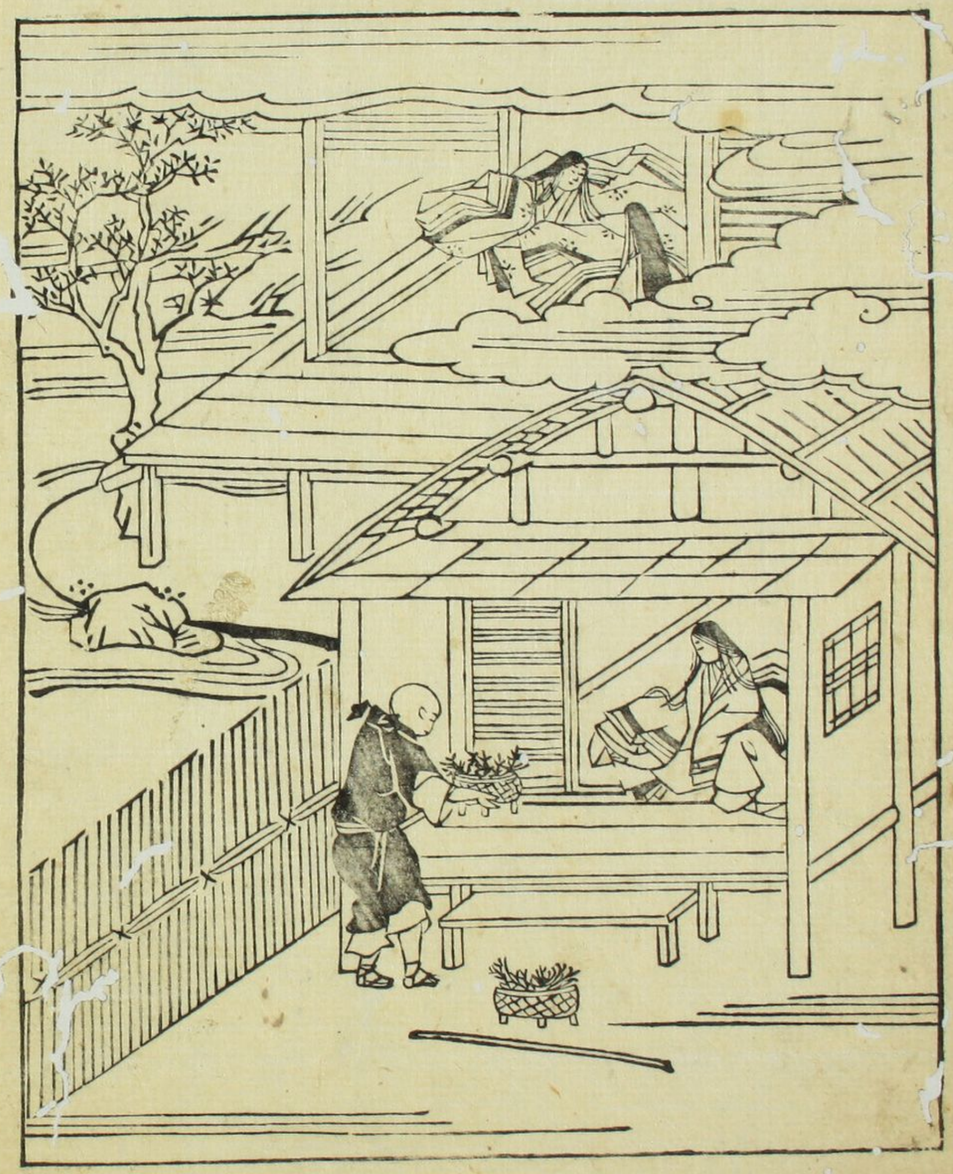
しきいるもれてうえせんなれ人のナキハ婢君
ゆくへもしらずかくれにしかなしさかな

早蕨　薫兵部卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]



中納言ハ人のもとにまかりそなたの
ことをのたまひてあるまゝにかの
ものをとりてあるまゝにかの
ものをとりてあるまゝにかの
ものをとり

道綱母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のとがむるもやと思ひて

人いみるいとゞ神のうれしよ

ひとりのみ神のうれしよ

弁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桑寄生

菜ニ生ス

寄一字モヨル

宿木

女二十七日迄テ禁中ニ参レリ

賭ノリモノ

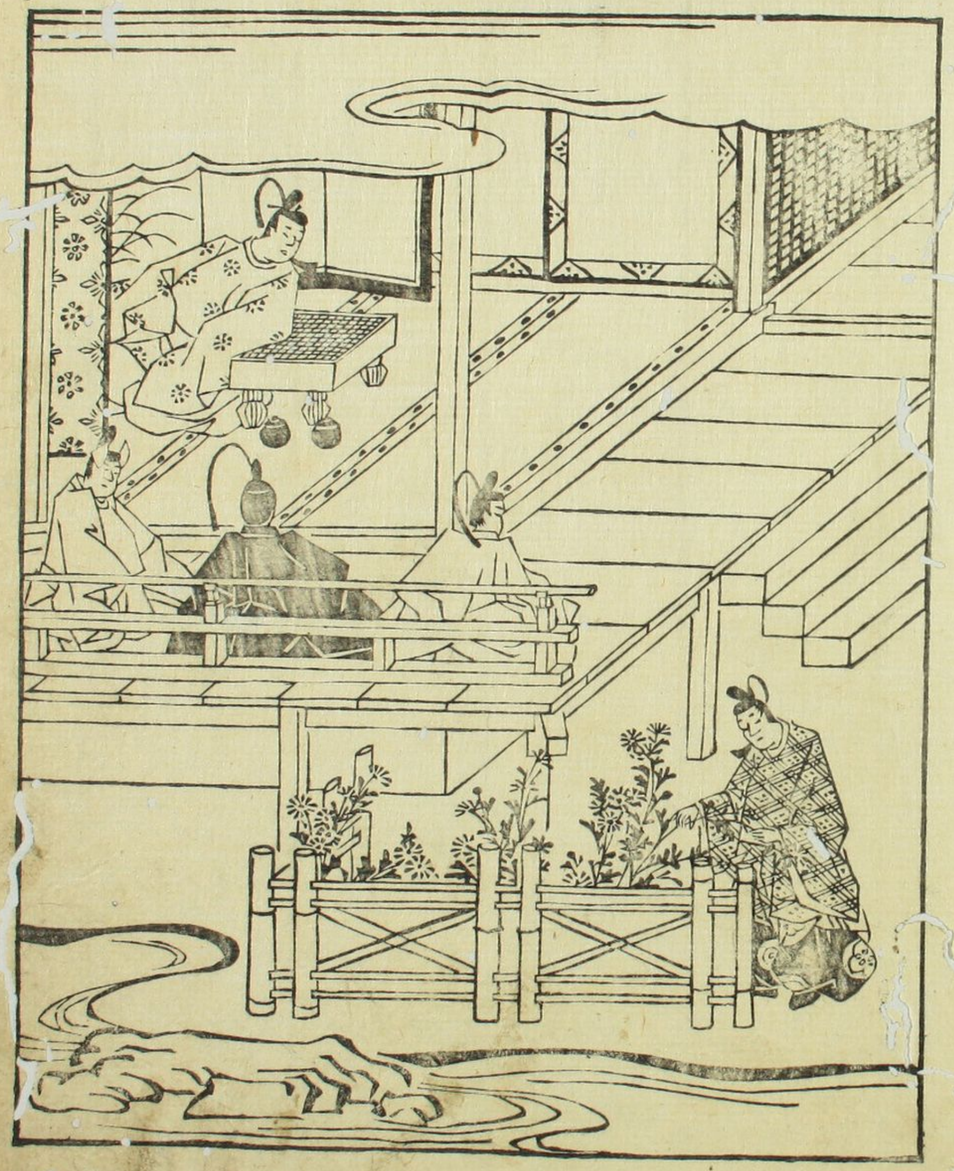
カケモノ

寄生

[illegible]

[illegible]

[illegible]



けい紀一こゝ
因得園中紀
養殖詩思詩
折枝香

まけ長路の子一ハ花一えゝゆゑ乃こま
こゝろ知りて咲りゝ
シリテハ下殿し下枝ツゝん一こ

下ハ郷ゑゝ詩歌し
紀ツゝんハ春人ツ仕こ
ゑん四し

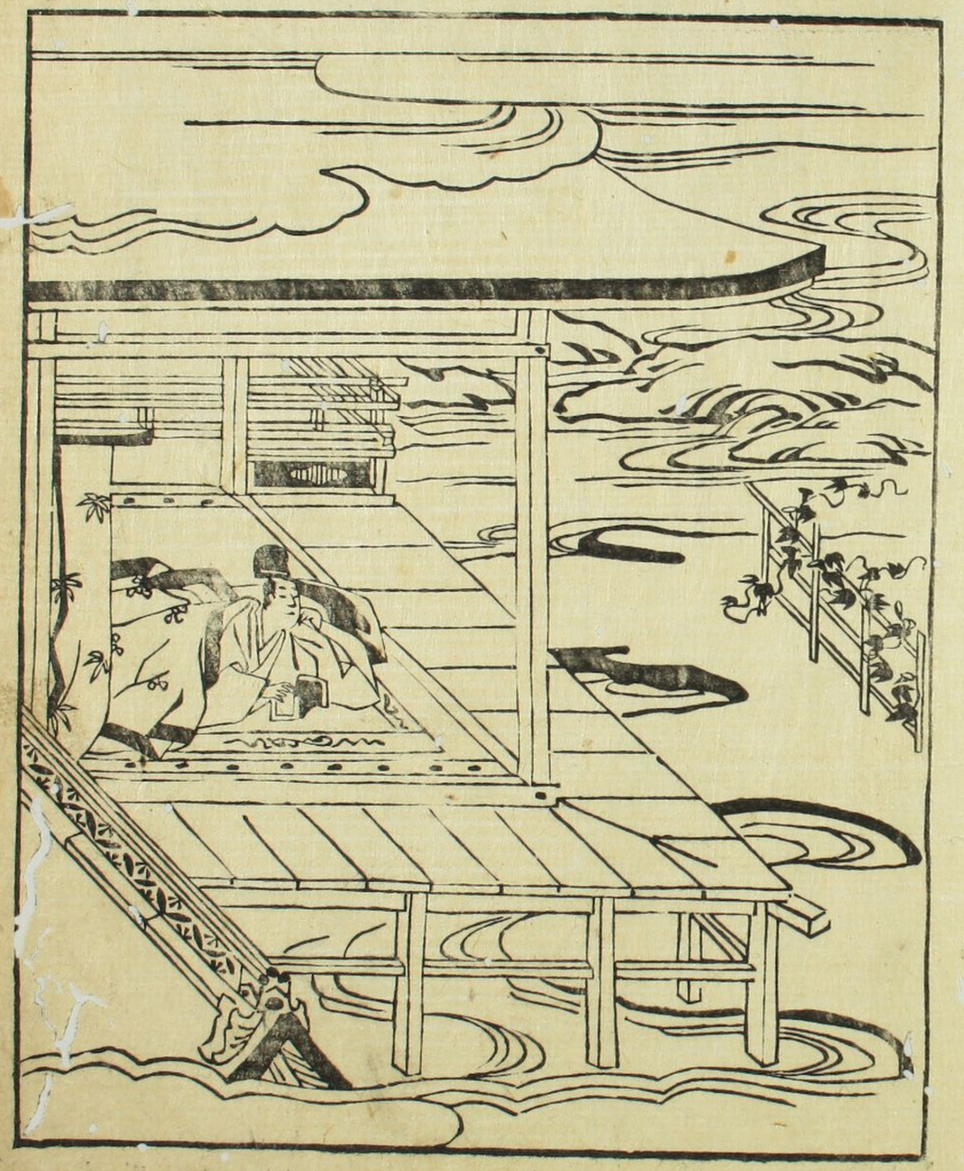
ものてゝの咲きゆゑに咲ゝ花ゝこゝ
ゝんゝ十ゝ又ハ
葉庭心又
保ゝん十ん一こ

ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



十五夜月さしわたる程右の方ついたり仲秋

元良親王

月いとあかかりける夜として自詠

大そらは月にてらされてくもりなくあるものとも思はるるかな

まけしひすがたをみてのあかつき

白雲はつきて月をうめておりまつ程にそ

行くへとてまつ月なれはいとあはれ

月のかたちはかくのごとくなりけり

月はいとあかくてかつらのもとにはかつらを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

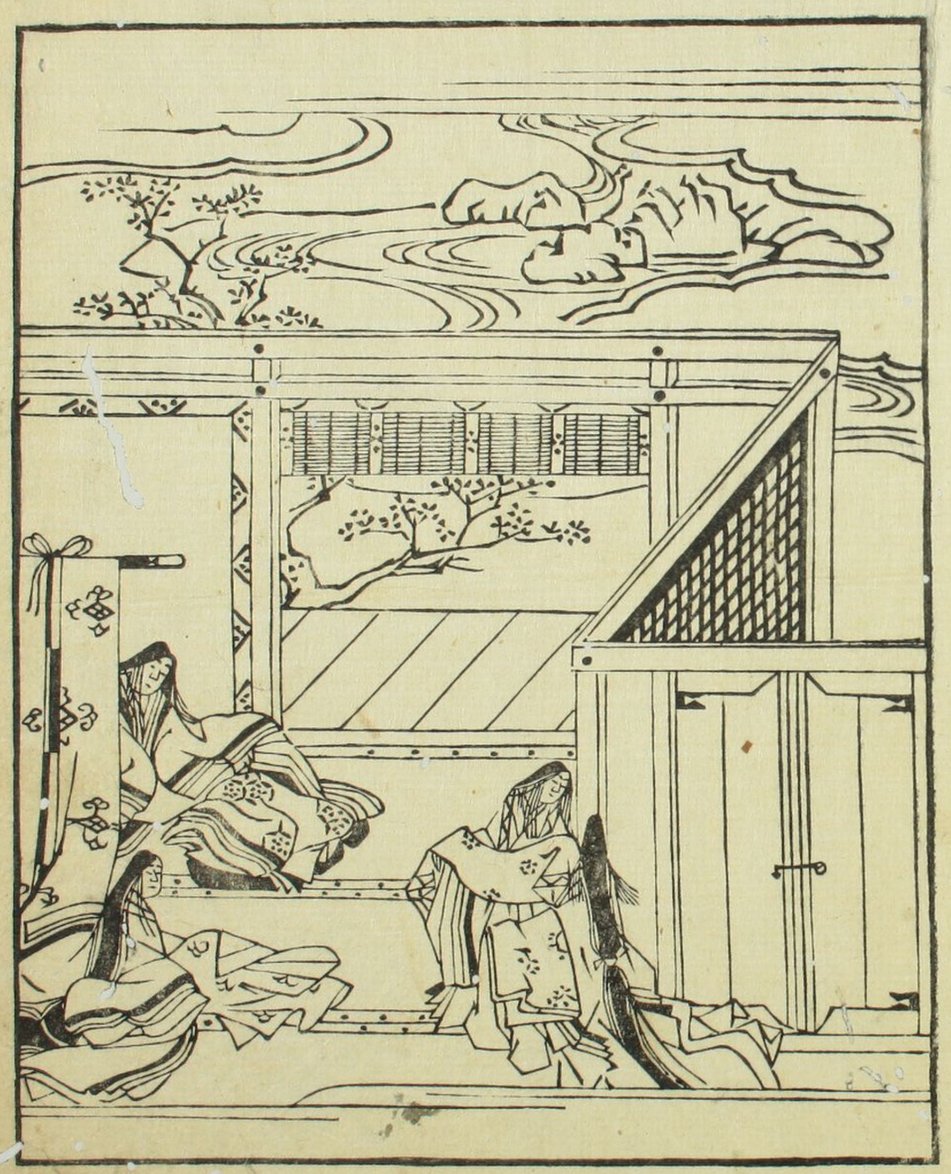
[illegible]

[illegible]

[illegible]

むしのかゆはい
菅姫君の中もの
ゝとゝ
菅七ゆかハヤヒつしに
ゝ寅ユト

いとゝわけつる道の露しけき
むしのゆゑ林のそゝ四ゐ
中君紙子の加まゝて活ゐ和をたなのり人よ
三ゝ人へきにゝとゝ命
中君人ゝ日ゝ行ゝ
ゝうせて出ゝれ
姫ゝたゝしいうゝり中美
者ゝ雅をゝ歌ゝ
白ゆ春ゝ
ゝ白ゆ春ゝ
ゝ白ゆ春ゝ
ゝ



（ハ驚カシ）

さるうちにそでみてげかいとゝせをたて女のさう
ぞくあまたぐしてこれ（中君ニハ）まいりたまふ（ヨイ紙ヲ）（サシ入レ）
うちめ
後ノウチテ
カサスルシ
わらはやうなるあまたあまをあまをあまをあまを
白ト中ト
ノ
ヒキハ
ヒ
ヒ
ヒ

中ノまくノコト

[illegible]

[illegible]

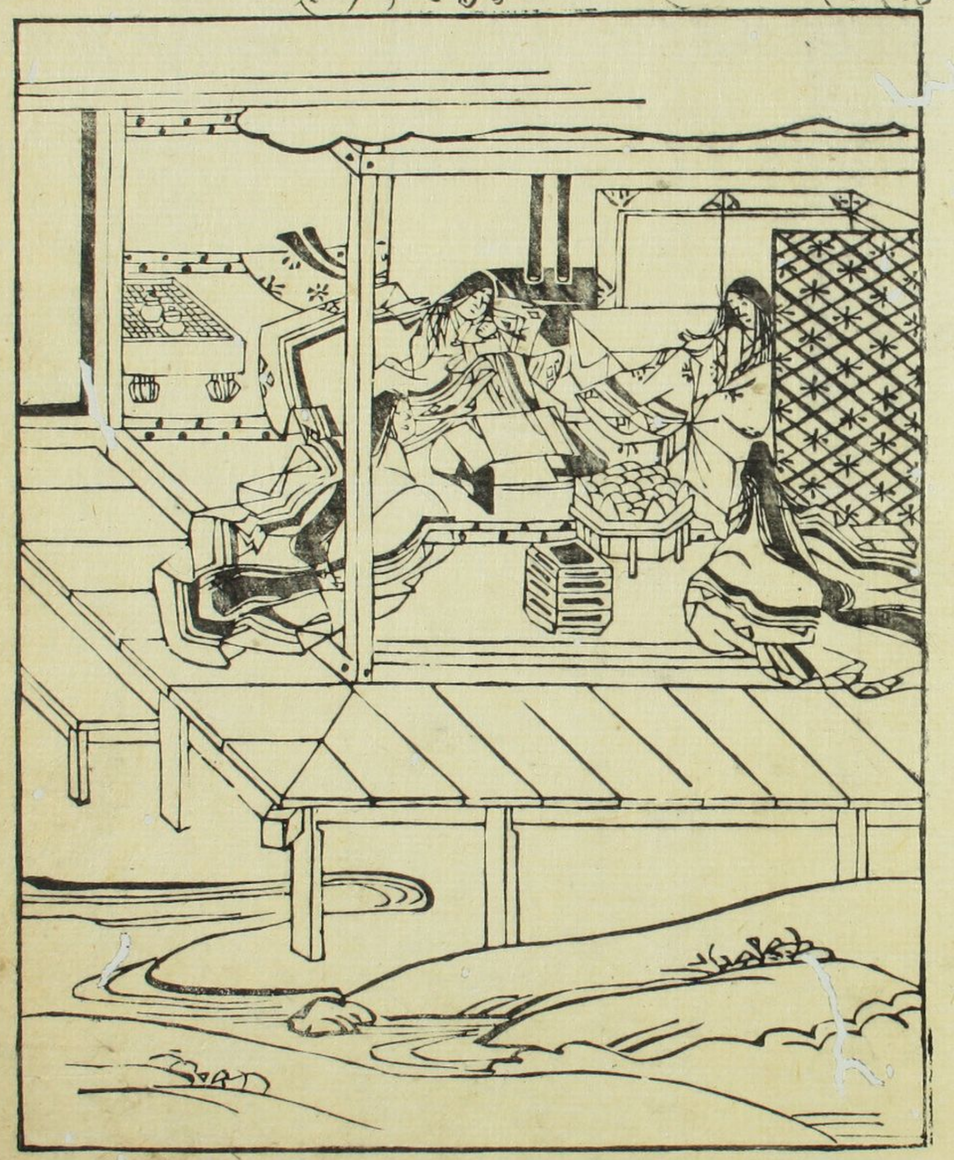
[illegible]

[illegible]
せんと毎のうばきて[illegible]
乃和尚[illegible]と思ひ[illegible]
[illegible]の九月廿日より[illegible]
[illegible]て昔[illegible]
[illegible]のしるしとの[illegible]
山寺のかさりて[illegible]
[illegible]
[illegible]

人と言ふ間もなくまりきちきんへ
みてあるきしたりしてとうとうあつまつて
はなをこのはしをくあまをうるよりかつ
をもうるおもしはまをあのれたつてきき
大腦ハ活舟ノ芸房ニ在
京ヨリ
つてかうるやたりしまさいやつ乃
みまをかりはんとうすをつくはるんとすのゆ
ものやトリ対タルホト思
スハ一夜モアヤシカメカラ
芸ハ一生半寿生ナリヨリ
ホカウスハ一夜モサシヒモ
トナリ
戸
あれをつくたりしかやうとも

おりひをうけるかのあれさ
かつをはくゆ中君よあるをまれ今まおりゆとは
うまをあまをのうけまをあるさんやいを
おつをはくうをてもて足はいるを山
里はをんてん堂よなをすをきすもうを隠ぬき
行へ見ぐやうてあるをはをいかきをて
せんざのあるをはをあきうをふを
中君ハ中
あるいそのあをまをふを
まをくたりの嘉生けをしを
此巴をひきの行て　中君
秋ニナれこそをひくんこ
ハやあるをテ作ちれ、ニテ
和ヌルト
秋をうを野へ乃家へ紀の生のすき紀

衛重



七日の朝八中あるう四ろうみ日よハ大ぶるう事
世ものまりに苔つ日の家のれすぎ式事ありて又
乃日大ぶ多うぶ行みしの四むこうろうへハ音
もとも多うも毛どかくさうれるよたんのやう
よむこぞりいそせ行つるたんひすくうやうん
四毎女三こ毛ちよりうちんなゆづりれ
へくのぶどれんどだうれんひらぶづけ
てれいそせうあるてようろひうへきうり
家のう君いうよ世ろう百かうへてむものひうご
まてかうろうを行ふうのおうまきあひまよ
たいう行てわう君行せうよゆうう行へいうと

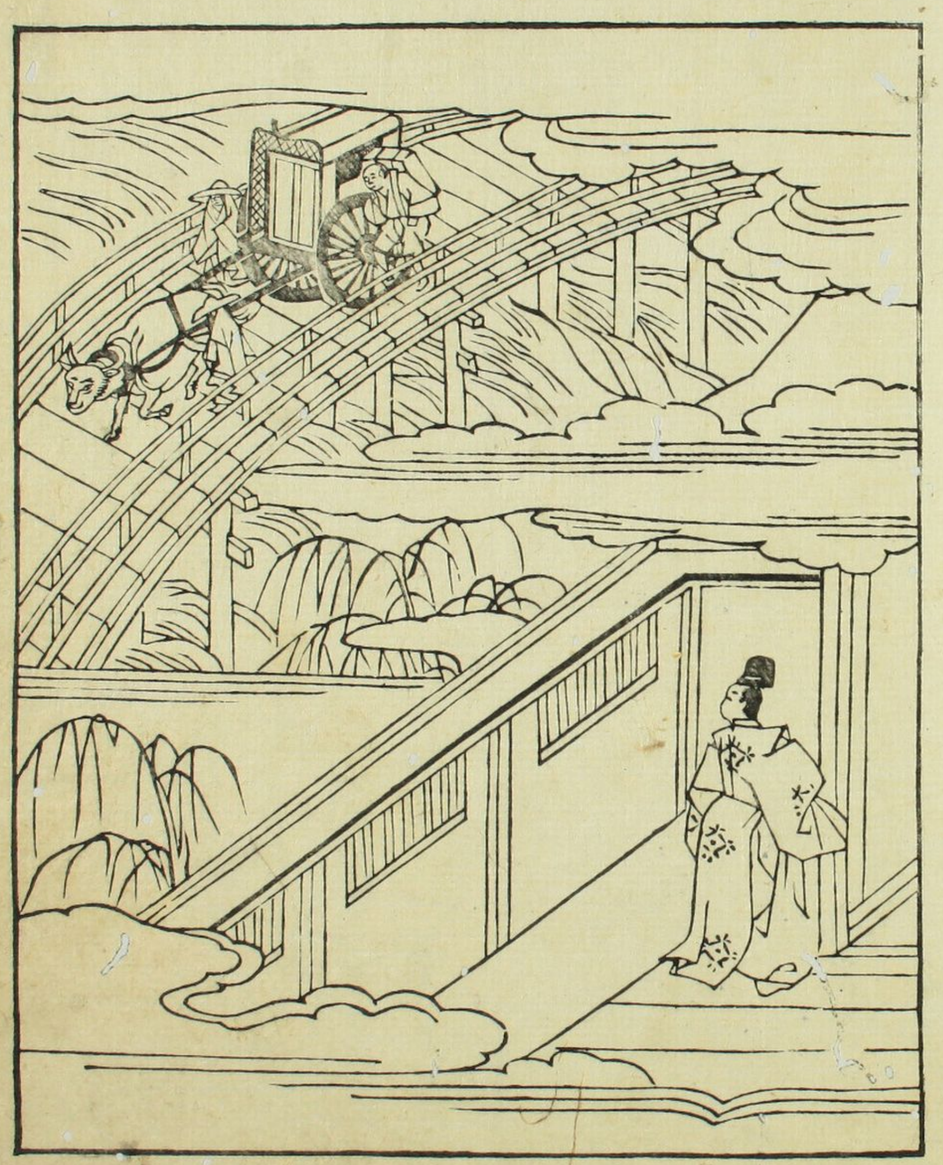
（注記：後撰皇女通志仁公 ゆ多皇女通貞信公 延喜第四皇子 ナトス り拾遺二つり拾一り）

（注記：後撰一つり拾 しとせ正古ハ君ハ方 ルトテ女フシク作テ 四面ノ方一女ニハウフ し）

篠ハ
拾破篠

（注記：ハ君ハ方ナフハ篠ノ 女ニテアフ物シトシセ ト婦君ハ子アリテ トメ給ハトし）

ちくさいそ毛ろう毛ろうそたりやうし
ぶ物ろうしれひうしひるとうよ祈りの
ろうそ尺まりくうやまるの思ひうれか
ろう物ろうやあんぶよハ女二ろを三条のう
よわうしれあすそれ日ぶつひよう今上見うせ
及ぶ投ハ上牧し行て苔のえんせき毛ぶれ
下り心ハ女二し
カヤレンモテ糸れ苔苑シ六り
ろうそくうのかうしよ行ろうとうしれふ
ろうくうのえう廿三よ独うけうくう
くてこうみそく 沖
うれ苔代とけて
ろう苔ぶの苑
けうをもあうの文ハんぶるの毛ハ
ぶとうそうそうき
行ふう
ろうかうしハ山ろうきれ



花の家きう

ものいろもみぢやまで

ちりかかる山ざくらのこれ

この車ひきなきいろげう

ひらげ世あぢろよりり

人乗車

こうづりむつるぬれ

こうづりむつるぬれ

人乗車十二

つくみ出むつへのいぶ

ひよりの行りりる宮居へ

ちよ女車ひろ

ちよ女車ひろ

ちよ女車ひろ

声を出さぬやうにとのことなり

都のゆかりのものひろめぜんどのの姫君知れる

前司ハ京ノ寺トカヤ

まいてそどう行ふこと車かられあのつま

まいてまろとみかりて屋をせそこ

てられんのおそろしつまげよかる

とまりてかつきやぐいりあてなる

行いらく芳人なりこうきにるでこと

なりきりそのわうきのこうきくうち女房

れいみられりこいのおとうとすをこそ

へそうそう屋のうえこうとうとうこと

あるこうわくきてゆをまをせくぐもの

れうせうきやのあるとうかとぐ

小袖上ぎぬ物

をうこと表ろ

かりそうう初ナし

ち菊文

表裏ともニキ

モ一キし

巨々等

メキナし

いうこそきぐ紀多でみうて見多よ弁ハ四ろの

ぐつのそよあいひまんとおりかそうしう日くし

おりやと思てかりうハ谷の美とそうかうち

ちさんへちらあうまてそ見あつの行でやをんも

とまりのよかうこうがくあのうちよゆう

こをあやーれんこまりそうつけてうこれ

と思いおりまてきしのうあるの弁ちび

てうきーくをきあいうれ陸やしまてう乃

行へいつのそ伊ぐでまちう行よ去ロうて二月

初陸まりてやこうるうそあいかうて母

きてうのうーう伊ぐ六かう母

うこうこうかーけの

東屋　黄五丈八月　詞書

懸想

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫君

みそぎ川せゝらぐなかれてものを
思ふ人とたきつるのまん

流ハナニトトカケテ

嗚呼ソコ

ソコ

なにもかこゝ海きまて
かすかなるひとをそなたハ
あなたの山ハ海のそこ里ゆるる
ふつきくるまかりあるかたに
えハ中宮ハ白
ものてなくの車ぞくるきかたいつれ
やくるハひらなのまてをやて中
ゆくしまの海ひるのうきはのうもる
ゆくしまの海ひるのうきはのうもる
きんでんて
九月三

ハ稚ノ時人形ニ恋
モノシホセニ流

詩ノ韵シツメキテ
作ノ韵トカアワレコトヽ

文ハ

沐髮ありて

掩韵

大夫ハ中ニ
ツカハレ女房

してあるひるつかうまつる
ものしたるよ人ものを自
中宮
君ハゆきるの程
ものをかきまてあのかるやうのをてうをけを
屏風の一ひらたまれるうちの紙ハ姫
ものをかきまてあのかるやうのをてうをけを
ものをかきまてあのかるやうのをてうをけを
ものをかきまてあのかるやうのをてうをけを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

姫君ニヨリ似タントシ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八幡ノト知スクハンソ
ムシセノフトシ

世の中にあるねをもはなれ
ていとゝ年ゝ
ゆくらくさし

家と京中
さいふ侍ニさト
イフンて

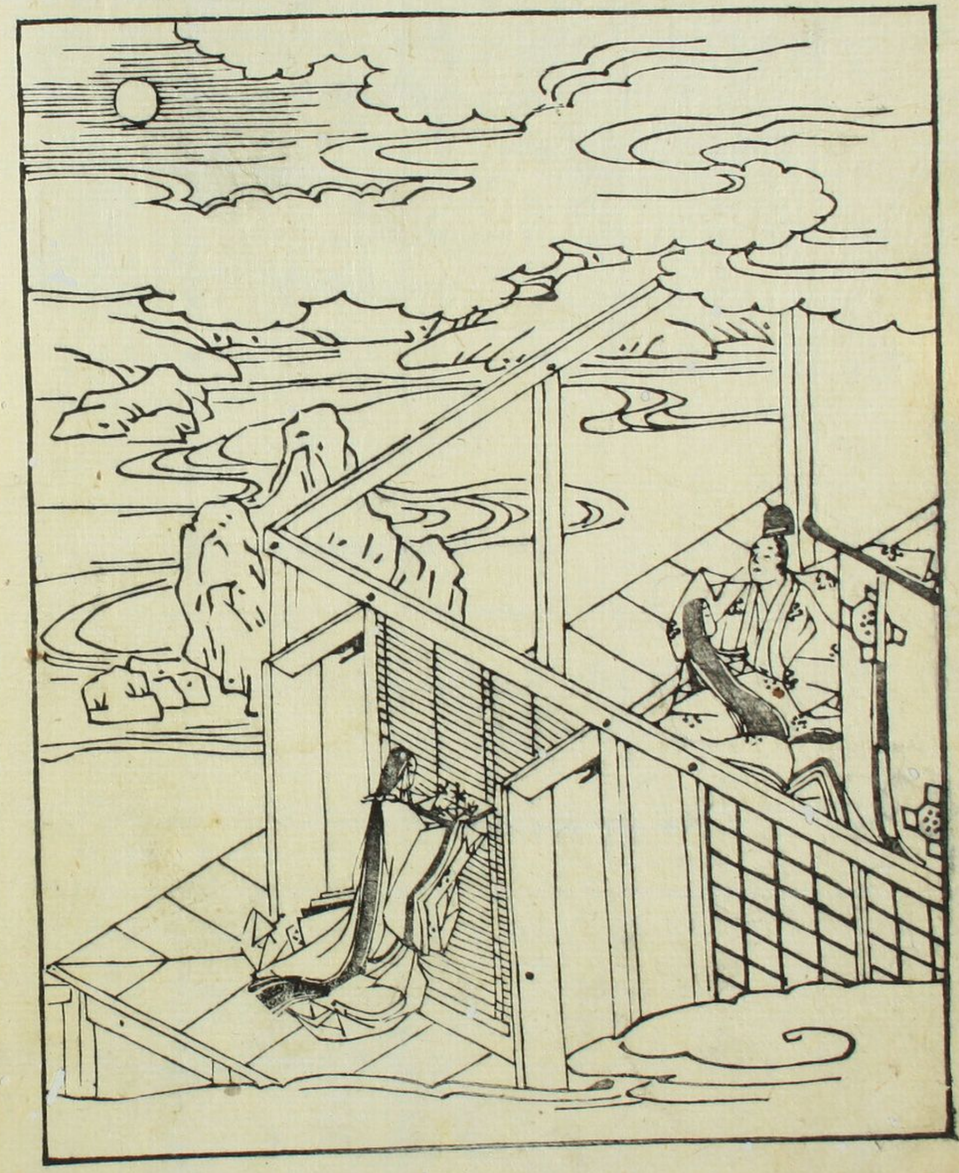
船出ニ

ゆくきけいかりけしはぐろはあまりあ
ゆくゝせんそちんとのあつかのと
らんとをのゝやハ四しまりあつん毎ゝ
させんといまりさぐらあやまし
ゝ行くぐきみをあるみと弁ゝきとびらを
乃らのゝつぐゝの行ゝ百やゝ海ゝまいゝ
ゝゝもゝむぐゝゝやゝきびきあづまりの
あまりかりゝるあまりぞゝきゝる
者のゝゝに者ゝるのそいまをゝ行ゝ
ゆあるゝゝるゝ大寝原ゝ
ゆをゝ者ゝあるゝゝてゆゝるゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

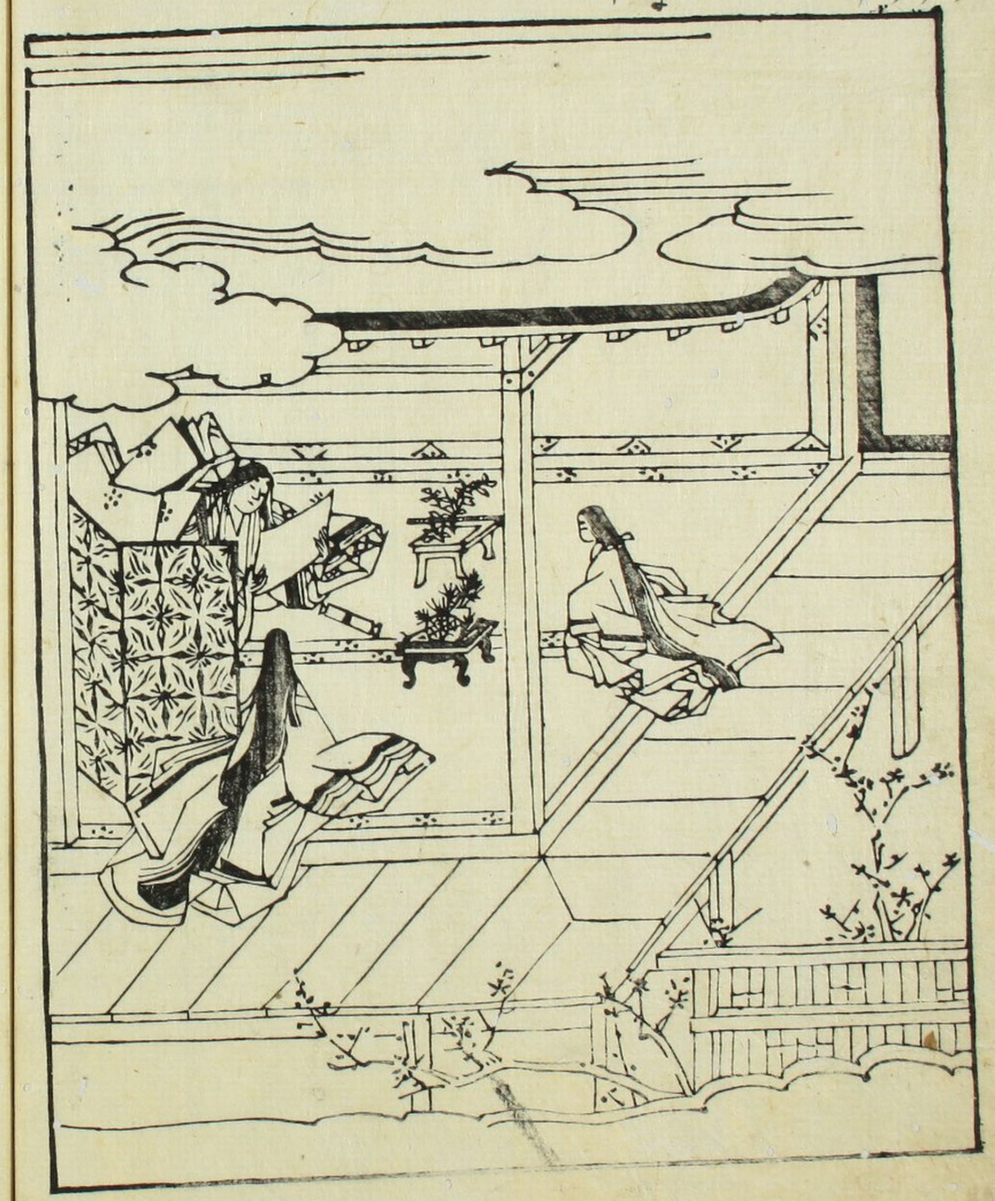
[illegible]



中たつ沐の付手の
手ごたえ
コトシ

白宮殿の夕月を
人と中たの行と
中たのとくてくて
をやすもんよ
あくてやつつ
ところといき
らの所なぎ
ところて
なるんとおりひや

見ることうき
為ノ法毋シコトクシレクス
メナレス心アカリス（ジキ
ガ）ヘルトシ



廊

後殿新造ニ位トヤ

法性寺

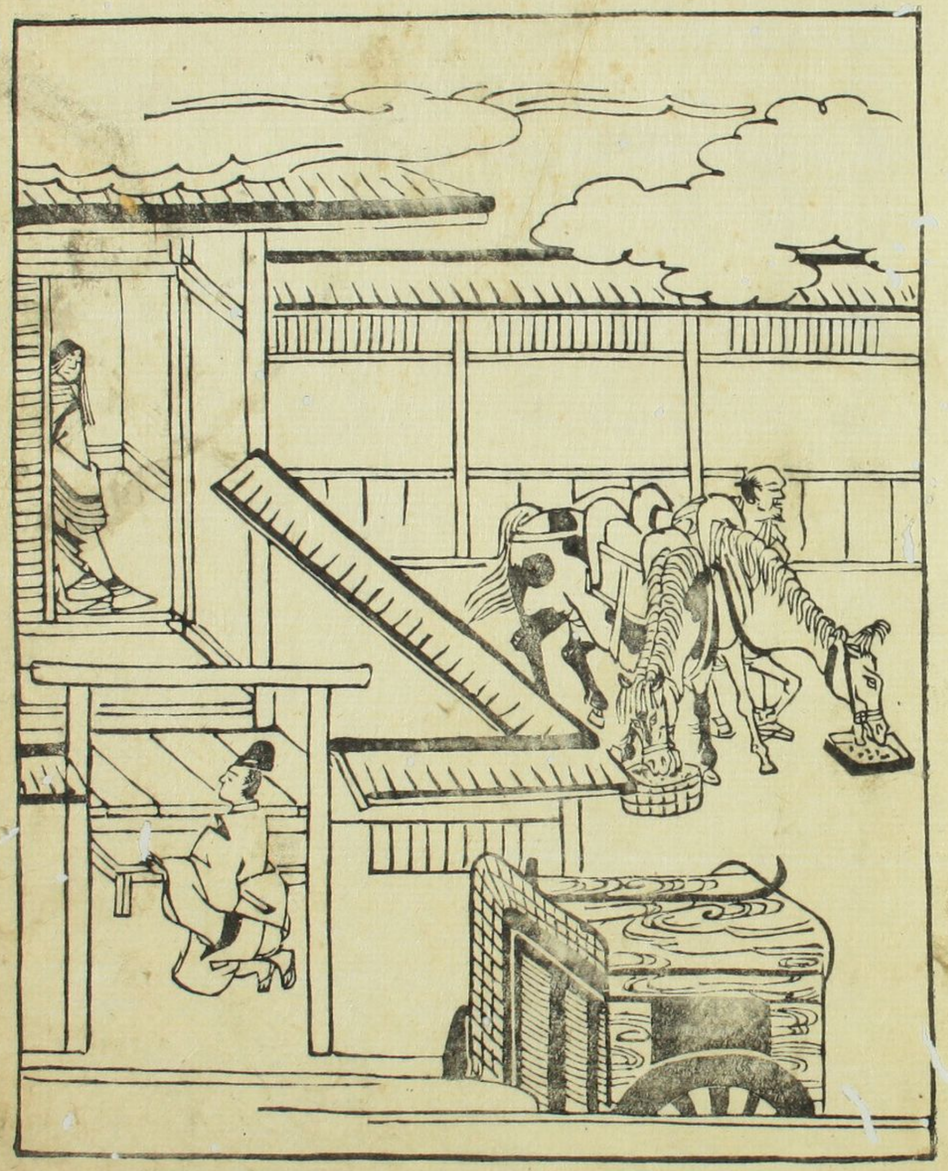
よきうれうあるべしとて人をまつ
まれなる人にうたへきこえ給ふ紀伊なる
人あるのうらにすむとさ山紀伊なるとの
郎人（ものゝ寺）ひとりかりにまでゆく事
をそれうけたまはるなり

一条院ガリシ右近ヒメ
ナミモアリシ人シ浮舟
女房云シ

似スリ

ものゐんのあるかぎりでは、はさうあれ
ども、そなたをうとがりて、入のまぎれにすまるる
さいなどくしきんてんの面、きて火ありうる
こと、うきうきとうべていまるかしはしまう
のうえにはいかへ火ものてゐるかたをうの人をうとい
かりうるひとつきいとあてやうなまわれてゐ
しのかうくうくうく

[illegible]
せばゝと思ひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]



ほとゝぎす
なきうゝ風うぎりのくらう
ゆけまもヨリ
アイシテフ
蓮ノ別ク
ル花

ゆくとこそ
ほとゝぎす
なきうゝ
風うぎりの
くらう
ゆけまもヨリ
アイシテフ
蓮ノ別ク
ル花

人心サクメナケしい業
命ノミヲキラス

業ふかき身
迷いいとしかりけるこのわびぬるよりは
もゝびとの
なげきを聞
なげきをいかに思ふらん白思ワスレ
あはれ行へきいわ
ゆへしかるを世をひとすかきうて自
なりき世をたのめてもなるのきい
あくあるすしいのちなりもり
さきうきいのちなりを
京へつかうの時方をまうて右
のまだの大殿の
うちうんすかなかきとも世をひとり

業ふかきよりとも
いうるんと
かりつうう殿上人
ふと人は
ものそのさ
ともものそ
世をいとそ
なりうをみう
業
のうをのかな
いうりわま
仏馬のはるかに五位二人
ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の
なかをあやうきさうら猶と
なげくなかにもうそ
ぶきの武士すがの宿
とそいふをたのもしあるひとの風
のたよりにきくやうにいとけなきこ
ろのあはれをもかなしかりしの
ちのことなりけるとかやあるとき
ものの文をよむにあるいとやすき
人にまさりてかしこくもあらぬ
ものしりにてもあらぬ人の
同じくよりてかたりけるを
狂ひて主をうしなひたるもの

まゝて退おく

きしに竹をうゑて門とする
あるじのそなたんとかまへて母あるとおぼしくて
かなめの石迄こゝのしるべとなる海の仏
とゐ作よりあつらへる舟のうしわかたる
うろきしにこゝろをれてんやうんかなそを
ゆめの月さえのりてもかりのなる
うれをんうらうるのうしの海とゆれ出づるこゝろ
うむ之の海てさびしうれる母の法をけまり
文 年あるもかうんりのうたうれの
うしまのうきまうちまうろうあも

さうれら暁
古木
コミりれ木し
常盤ニヨセテ

山のヨリ山ノ姫ヨシ
法舟トキ

姫君ト白イ
タキ人ニ
ウ〜ウシテ

白キカキリ
アヤシ

ねるの方のうら
ゝ白川いとうて
ものうらしれる

まつのいろいかなるをり
ねそゆゝしきまれぬ
うまれ毎定ナキトト

きしにつきてあり
ゝ舟をてあとにあのいぶる
人よたゝけれて人
ゝ舟方とりのぶれ
ぶらゝずう方よりの
きかぎりあ川ゝう神
ゝ行法ものすきわ人
ものふとはかりあ
なと見つぎて年ゝ
ちよ河方ト行ト合シ
音のみりつれゝ

ヒトハ
ヒトハ
ヒトハ

ヒトハ
ヒトハ
ヒトハ

白ト行ト合シ
ヒトハ
ヒトハ

白ト行ト合シ
ヒトハ
ヒトハ

白ト行ト合シ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雑事

動詞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

補鎮し名れ巻校キリツ(ツ)メリ

けきぐ(姫)のあれ(れ)やゝ行きゝはそのゆき(ゆき)寺
みとけ(ミ)ぐ(ぐ)きやゝせゝを行てかきそへてりて
きゝうゝきゝ
乃(ノ)ちゝ(ち)ゝのひゝんゝよ行なつゝん
ひゝをのゆゝうゝ古行まぐりて
日
かゝのゝをゝのたゆゝひゝきゝよゝをゝへて
ゝゝぐ世つゝきゝをゝ(うゝきゝへてし)へて
巻(ニニ下ノ)数ゝりかきゝへ行ゝ